

## 研究経過報告

岡田 猛

1996年10月～1997年10月の研究経過報告は以下の通りである。

### (1) 研究業績

私は、「コラボレーションを通しての科学的発見過程」に関して、認知心理学的な実験や、インタビュー、質問紙調査、科学史的研究などを行ってきた。また、問題解決における仮説の役割や仮説検証方略に関する理論的な研究も行ってきた。このように多様なアプローチを通して、協同問題解決過程を明らかにしようというのが私の研究のやり方である。なお、私の研究は、主として北米の研究者との共同研究であり、研究成果は必然的に英文で共著という形で発表している。

印刷中および発行済み (1996～1997)

岡田 猛 (印刷中) 仮説をめぐるいくつかの仮説：科学的研究における仮説の役割 丸野俊一編「シリーズ心理学のなかの論争 I：認知心理学のなかの論争」京都、ナカニシヤ出版

Schunn, C. D., Crowley, K., & Okada, T. (in press). The growth of multidisciplinary in the Cognitive Science Society. *Cognitive Science*.

Okada, T. & Simon, H. A. (1997). Collaborative discovery in a scientific domain. *Cognitive Science*, 21, 2, 109-146

岡田 猛 (1996). 発話の分析 中澤潤, 大野木裕明, 南博文編「心理学マニュアル：観察法」北大路書房, 122-133.

Okada, T. & Crowley, K. (1996). Capturing collaboration: An introduction to the special issue. *Cognitive Studies: Bulletin of the Japanese Cognitive Science Society*, 3, 4, 3-6.

Miwa, K. & Okada, T. (1996). Effective Heuristics

for Hypothesis Testing: An Empirical Discussion using Computer Simulation Method. *Japanese Journal of Artificial Intelligence*, 11, 6, 877-887.

Oshima, J. & Okada, T. (1996). Process of children's knowledge acquisition in a balance scale task. *Hiroshima Forum for Psychology*, 17, 1-12.

### (2) 学会活動

学会活動の面では、日本認知科学会と発達心理学会の学会誌の編集委員を務めている。また、認知科学のゲストエディタの仕事に対して、日本認知科学会より企画論文賞を受賞した。

認知科学会学会誌「認知科学」編集委員1996年～

発達心理学会学会誌「発達心理学研究」編集委員1997年～

認知科学「コラボレーション」特集号ゲストエディタ (1996年)

日本認知科学会「企画論文賞」受賞 (1997年)

### (3) 招待講演等

日本教育心理学会シンポジウム「知識の柔軟な利用と深い理解に向けて」発表者 1996年

フェジャー学会ノンエンジニアリングフェジャー研究会講演「協同による科学的発見をめぐる」1996年

アメリカ Wisconsin 大学シンポジウム “Understanding Interdisciplinary Teamwork: Challenges for Research and Practice” 発表者 1996年

日本教育心理学会小講演「学際的共同研究の理解に向けて」1997年

日本科学哲学会ワークショップ「科学的発見のメカニズムの解明に向けて：心理学、計算機科学からの提言」話題提供者 1997年